

2020年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

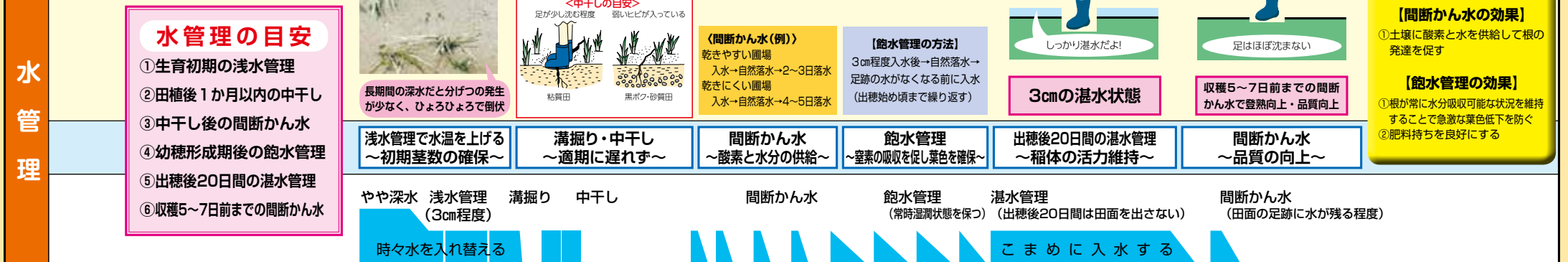
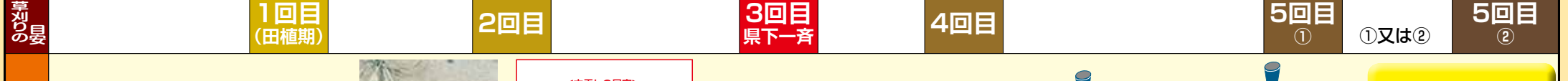
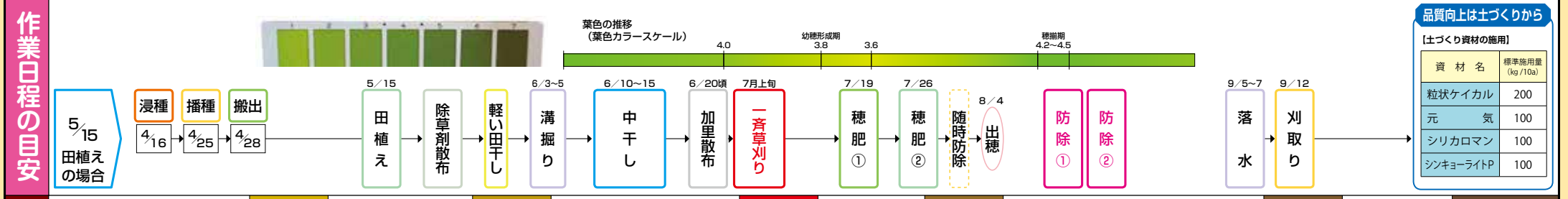
高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 5/15を中心とした田植えと70株植の推進
- 溝掘りと田植後1か月以内の中干し
- 適期に適正な防除で被害を防止
- 生育時期に応じた水管理の徹底
- 適期収穫

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
m ² 当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	70
m ² 当たり籾数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5



4月25日を中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心とする。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	8/1頃
4/16頃	4/25頃	5/15	8/4頃
4/24頃	5/2頃	5/20	8/7頃

育苗日数は20日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は70株/坪

適期の中干し開始・適度な中干し実施

○田植後1か月(8葉頃)は最も根が伸びる時期です。この時期に中干しをすることで根の伸長を促進します。

○中干しの効果を高めるため中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう

中干しの有無による稲の姿

適期で適正な防除で被害を防止!!

病害虫防除体系

【育苗基本防除】・苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、イネズムシ、イネネットムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	葉いもち、イネズムシ、イネドロオウムシ、イネネットムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、(白葉枯病)
※紋枯病の常発地の場合 エバーゴルド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	葉いもち、白葉枯病、紋枯病、イネズムシ、イネドロオウムシ、イネネットムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※対象病害虫の()内は移植3日前~移植当日のみ登録あり

【本田基本防除】・粉剤、液剤体系

防除時期	随時防除		基本防除	
	紋枯病の発生が多い圃場	紋枯病+カメムシが多い圃場	穂揃期	傾穂期
粉剤	出穂10日前頃 バリダシ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	出穂始め(随時) バリダシ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイド粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	バリダシ液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

除草剤散布は遅れずに

雑草防除体系

●5cm程度の水深を確認する。
●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

【初期除草剤】
ピラクトン1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

【初期除草剤+中期】
メテオ1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

【一発処理剤のみ】
エンペラー1キログラム粒剤 1kg/10a (田植同時~5日後)

【雑草が残った場合】
パサグラン粒剤 3-4g/10a (田植後15日~5日後)

【広葉雑草が残った場合】
クリンチャー1キログラム粒剤 (ノビエのみ) 1kg/10a (田植後7日~4.0葉頃まで)

【ノビエが残った場合】
トリム1キログラム粒剤 (ノビエのみ) 1kg/10a (田植後14日~7.5葉頃まで)

初期除草剤の適正使用
①代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。
②軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。
③薬害軽減のため、初期除草剤マーシット1キログラム粒剤は移植後3日以降の使用とする。
●田植同時除草剤は、薬害を受けやすいことから、上記の①を守り田植後の入水をゆるやかにする。

土壌に応じた適正な施肥量

コシヒカリの基肥施用基準

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)	
	標準タイプ	省カタイプ	基肥	穂肥
砂壌土	肥料名: Jコートコシヒカリ1号	肥料名: けい酸加里入りLPssコシヒカリ1号	肥料名: 基肥206 又は 基肥555	肥料名: 追肥3号
	施肥量: 35 (kg/10a)	施肥量: 45 (kg/10a)	側条施肥量: 32 (kg/10a)	1回目: 10, 2回目: 13 (kg/10a)
半湿田黒ボク土	肥料名: Jコートコシヒカリ2号	肥料名: けい酸加里入りLPssコシヒカリ2号	肥料名: 基肥206 又は 基肥555	肥料名: 追肥3号
	施肥量: 30 (kg/10a)	施肥量: 40 (kg/10a)	側条施肥量: 25 (kg/10a)	1回目: 10, 2回目: 12 (kg/10a)
粘質土	肥料名: Jコートコシヒカリ2号	肥料名: けい酸加里入りLPssコシヒカリ2号	肥料名: 基肥206 又は 基肥555	肥料名: 追肥3号
	施肥量: 27 (kg/10a)	施肥量: 35 (kg/10a)	側条施肥量: 23 (kg/10a)	1回目: 10, 2回目: 10 (kg/10a)

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!